

第 5 ・ 6 学 年 図 画 工 作 科

1 学年の目標

<p>(1) 創造的に表現したり鑑賞したりする態度を育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする。</p> <p>(2) 材料などの特徴をとらえ、想像力を働かせて発想し、主題の表し方を構想するとともに、様々な表し方を工夫し、造形的な能力を高めるようにする。</p> <p>(3) 親しみのある作品などから、よさや美しさを感じ取るとともに、それらを大切にするようにする。</p>
--

2 指導の要点

A 表 現	<p>(1) 材料や場所などの特徴を基に造形遊びをする活動</p> <p style="margin-left: 20px;">ア 材料や場所などの特徴を基に発想し想像力を働かせてつくること。</p> <p style="margin-left: 20px;">イ 材料や場所などに進んでかかわり合い、それらを基に構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながらつくること。</p> <p style="margin-left: 20px;">ウ 前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしてつくること。</p>
A 表 現	<p>(2) 感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことを絵や立体、工作に表す活動</p> <p style="margin-left: 20px;">ア 感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから、表したいことを見付けて表すこと。</p> <p style="margin-left: 20px;">イ 形や色、材料の特徴や構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、表し方を構想して表すこと。</p> <p style="margin-left: 20px;">ウ 表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表現に適した方法などを組み合わせて表すこと。</p>
B 鑑 賞	<p>(1) 親しみのある作品などを鑑賞する活動</p> <p style="margin-left: 20px;">ア 自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみある美術作品、暮らしの中の作品を鑑賞して、よさや美しさを感じ取ること。</p> <p style="margin-left: 20px;">イ 感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえること。</p>
ー 共 通 事 項 ー	<p>(1) 「A表現」及び「B鑑賞」において、共通に必要な活動</p> <p style="margin-left: 20px;">ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。</p> <p style="margin-left: 20px;">イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。</p>

3 内容の取り扱い

- (1) 個々の児童が特性を生かした活動ができるようにするため、学習活動や表現方法などに幅をもたせるようにする。
- (2) 「A表現」の感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことを絵や立体、工作に表す活動については、児童や学校の実態に応じて、児童が工夫して楽しめる程度の版に表す経験や焼成する経験ができるようにする。
- (3) 材料や用具については、次のとおり取り扱うこととし、必要に応じて、当該学年より前の学年において初歩的な形で取り上げたり、その後の学年で繰り返し取り上げたりする。第5学年及び第6学年においては、針金、糸のこぎりなどを用いることとし、児童が表現方法に応じてこれらを活用できるようにする。
- (4) 事故防止に留意する。
- (5) 「B鑑賞」の指導に当たっては、児童や学校の実態に応じて、地域の美術館などを利用したり、連携を図ったりする。

4 評価の観点の趣旨

観 点	観 点 の 趣 旨
造形への関心・意欲・態度	自分の思いをもって表現したり、鑑賞したりしながら、つくりだす喜びを味わおうとする。
発想や構想の能力	感じたことや見たこと、材料や場所などの特徴を基に表したいことを思い付いたり、形や色、用途や構成などを考えたりしている。
創造的な技能	感覚を働かせたり経験を生かしたりしながら、表したいことに合わせて材料や用具を使い、様々な表し方を工夫している。
鑑賞の能力	親しみのある作品などの形や色などから、表現の意図や特徴をとらえたり、よさや美しさを感じ取ったりしている。